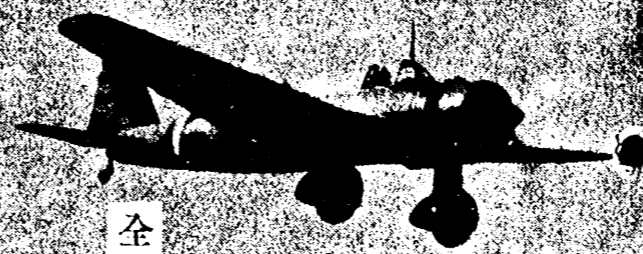


台灣總督府
情報課編輯

部報

特輯
健民運動

號日一月五



全力で守れこの空この國土

停

5
錢



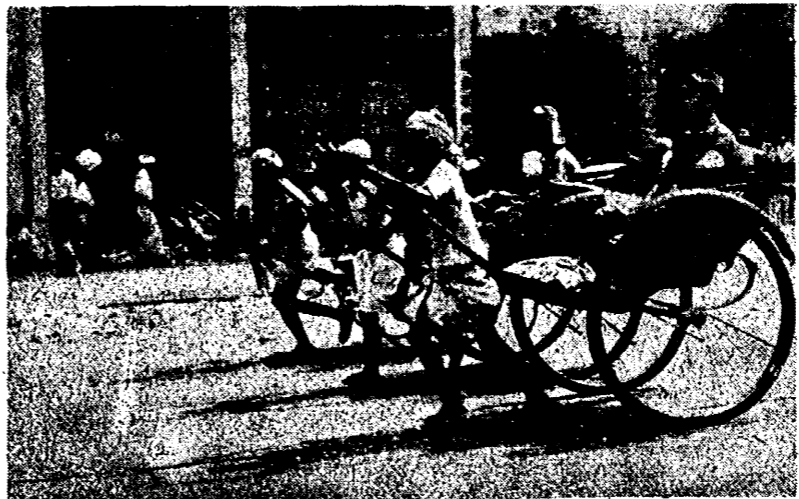
台灣總督府
情報課編輯



昭和十七年九月二十五日發行
昭和十七年五月一日發行
（每月二十一日、十五日發行）

五月一號

5
錢



我軍を迎へ平和運る 上 印度人の人力車で買物に出かける勇士達
 購買市街頭風景二題 下 自轉車に日章旗をつけて街を快走する住民

現地
 報告

バタアン前戦記

難攻不落を豪語して無益の抗戦を續けてゐたバタアン半島の米比軍も去る四月十一日遂に崩潰するに至つた。去る三日の神武の佳節に總攻撃の火蓋を切つてから僅か八日、御稜威の下日頃鍛へた堅忍不拔と一死奉公の精神に燃える皇軍諸部隊は、不眠不休、道なき密林地帯を切開き、斷崖絶壁を攀ち、全線要塞の敵陣地を次々に屠り、敵軍に最後の止めを刺すべく猛進を續け、遂にこれを撃破するに至つたのである。以下は陥落直前のバタアン戦線に従軍した臺灣放送協會比島従軍録音班員吉村敏氏が本誌に寄せた生々しい従軍記である。

— 1 —
 ○月〇日はバタアン前
 線に出る機会に恵まれた。
 マニラから軍用車に乗つ

て一時間餘、飛ぶやうにし
 てサンフェルナンドへ向
 ふ。その道路は舗装されて
 實に立派なものである。道
 路に並行して通つてゐる鐵
 道の貧弱さもさることなが
 ら、これだけの舗装道路が
 あつたのでは、汽車の發達
 しないことももつともなこ
 とだと自動車道路の立派さ
 に感心してしまふ。道路の
 兩側のフィリッピン人の住
 宅には白い紙に梅干のやう
 に小さい日の丸を描いてた
 てゝゐる。垣根から赤い佛
 桑花の花がのぞいてゐる。
 臺灣の田舎とさして異なら

目次 (五月一日號)

現地報告	バタアン前戦記
南方共榮圏の諸民族と華僑	吉村 敏
皇民講座(精神の勝利)	印度洋作戦とバタアン半島の觀望
結構病療防の一要諦	情 報 課
乳幼児の保健問題	中美春治
學童の健康管理	桂 重鴻
	村上晴美
	丸山芳登

ない風情であるが、フィリ

ツピン人の家は例の床の高
いニツバ葺の家で、これを
ニツバハットと呼んでゐ
る。

疾走する乗用車の両側に
は、数知れない米軍の軍用
車やトラックが轉がつてゐ
て、どれもタイヤとエン
ジンを失つてしまつてゐ
る。彼等の最後の日の敗走
振が想像される。しかし、

それにしても此處を逃去り
行く米比軍が幾多の橋梁を
破壊し、皇軍の急追をは
んだかを知ることが出来て
腹立たしい思ひであつた。
破壊された橋梁は、既に
木橋に代へられ、その名も
なつかしい大東亞橋、武勇
橋等と墨痕鮮やかに記され

てゐる。

外國で眺める日本の文
字、それはなつかしいもの
と一つであるが、輝やかに
い戦果を収めてのそれは、
なつかしいばかりか愉快な
ものである。それにしても

これ等の長い橋梁を架設し
た工兵隊の勞苦も並々では
なかつたらう。
サンフェルナンドに苦く
と道路の突當りに教會堂が
見える。しかも教會堂の周
圍は全く焼け果て、見るか
げもない。これ等の火災は
戰禍によるものではなく、
共產黨員の放火によるもの
だと聞く。高い塔の風見の
車がガラ／＼と五月蠶の矢
車のやうな音をたて、風

しいと希ふ。こんな道路を
往く時私は軍用車に乗つて
ゐることさへ濟まない氣持
であつた。それでも車足が
にぶつて來ると窓に近い

見の下には再び鳴り響く日
を待顔に大きな鐘がわびし
くぶらさがつてゐる。

○時間後、サンフェルナ
ンドを後にした軍用車は、
バタアン半島のつけ根、オ
ラニを過ぎる。燃えあがる
やうな路面の氣温を突抜け
て氣が狂つたやうに前線に
急ぐ。サマール、アボカイ
等々の部落を過ぎると、も
ちバタアンの山々が車窓に
せまる。何といふ險峻な山
々であらう。私は改めてそ
の險峻さを見直す。全く錐
の刃を並べたやうな山々な
のである。

バランガを過ぎる頃から
道路の両側に生々しい砲彈
の痕を見る。戰場をます

／＼身近かに感じて來る。

沼澤地や水田の近くに落
下した彈痕には水が湧い
てその中に灰色の水牛が軀
を横たへてゐる。此の鍾重
な動物は戰場を我物顔に伺
主を失つて横行してゐるの
である。前線を追はれて放
れ駒が二頭水牛の群を抜け
て歸つて來る。南部臺灣の
原野を想はせるやうな風情
である。水牛に集つて白鷺
が翼を擴げてゐる。

遙かにバタアン半島突端
には高峯マルベレス山が海
抜千三百米の蒼い姿を見せ
てゐる。此の時遠く遠雷の
やうな砲聲を聞く。山は次
第に險険を加へ、バタアン
作戰の容易でないことがし

み／＼と感じられる。
密林に包まれた錐の刃の
やうな山々、もう其處には
山を抜き、谷を埋めて道路
が設けられてあつた。その
道路の兩側には電話線が通
じ、工兵隊や電信隊の勞苦
の程がしのばれる。熱帯植
物の密林を伐る——ジャン
グルを伐る——これだけで
も容易ではない。それだけ
に、その上はげしい暑熱が
ある。熱帯病がある。更に
山頂から絶え間なく火を吐
く砲門がにらんでゐる。し
かも夜を日についての活動
である。この仕事の爲に臺
灣の高砂族が最近入込んで
ゐると聞く。志願兵制度を
前にして大いに活躍して欲



上・わが砲兵隊の猛撃 下・進む又進むの道路目し
わが自動車隊の進む

て來た兵隊さんが、
「前線へ出るのですか、氣
をつけなさいよ。」
と親切に言つてくれる。ホ
ケットからあるだけの煙草

をつかんで渡す。大きな波
を越えるやうに黄土色の砂
煙をあげて車は唸りながら
山を越える。この砂煙が敵
の砲撃目標となるのであ

をつかんで渡す。大きな波
を越えるやうに黄土色の砂
煙をあげて車は唸りながら
山を越える。この砂煙が敵
の砲撃目標となるのであ

る。見透の利く處へは必ず
砲彈の洗禮がある。

ふと見ると道路の兩側に
無数の彈痕が殘つてゐて、
木蔭には敵の彈藥箱が一ば
い彈がつまつたまゝ砂まみ
れになつてゐる。山はだを
洗つて來た風にブウンと異
様な臭がする。死體が！ふ
と見ると目の前に馬が腐つ
てゐて筋骨が白く草むらの
中で光る。

唸りながら登りつめた處
に、大きな樹が折れてゐる
砲彈にやられた跡だ。車の
速度がぐつと落ちると次の
坂にかゝる。樹幹を見れば
銃彈の痕が無数である。蟬
が降るやうに鳴いてゐる。
一つの山蔭に車が隠れた

かと思ふと、再びマルベ
スの山頂が見えて來る。白
い雲が山頂をかすめて流れ
てゐる。この山のコレヒド
ル島に面して、マニラ灣に
臨んだ部分は平地をもつて
半島の突端と連つてゐる
が、反對側は激も味方も一
歩も進めない程の峻険さを
もつて海に臨んでゐる。

終に目的地が見えて來た
それは急坂をよち登つた先
で、その間に一筋の溪流が
流れてゐる。ガオガオ河で
ある。私の行くのは溪流の
對岸ナチブ山の中腹で、其
處は第一線と〇〇米と離れ
てゐない處である。ナチブ
山の前方には、彼我對陣し
て晝夜の別なく闘つてゐる

のである。敵陣を背にして
ナチブの中腹にたどりつい
た時は、もうたそがれに近
い頃であつた。急いで軍用
車を木蔭に入れてゐると、
砲兵陣地の兵隊さん達は、
「もうそろ／＼砲撃が始ま
りますから、壕の中には
いつて下さい。」

といふ。見れば私の立つて
ゐる四邊には、砲彈の破片
が四散してゐて、幾つもの
彈痕が見える。兵隊さんは
地面を深く堀つて壕を作
り、その上に太い生木を横
たへて、山賊の住家のやう
な壕を幾つもこしらへてゐ
た。

聞え、工兵隊は溪流に橋を
架けてゐた。
「御苦勞様です」
私が擧手の禮をすると、
「宣傳班も此處まで來るん
ですか」

と兵隊さんがいたはるやう
に言ふ。もう、夕食の準備
が行はれてゐる。夕霧の中
に幾條かの白い煙が溪流の
脇から長閑にたち登つてゐ
る。砲彈の御見舞を氣にし
ながら急いでナチブ山に登
る。中腹に大塚准尉の小舎
が見える。私は大塚准尉が
〇〇軍の人であると知つて
なつかしくてたまらなかつ
た。

小舎にたどり着いた私に
元氣な准尉は何かと私達の

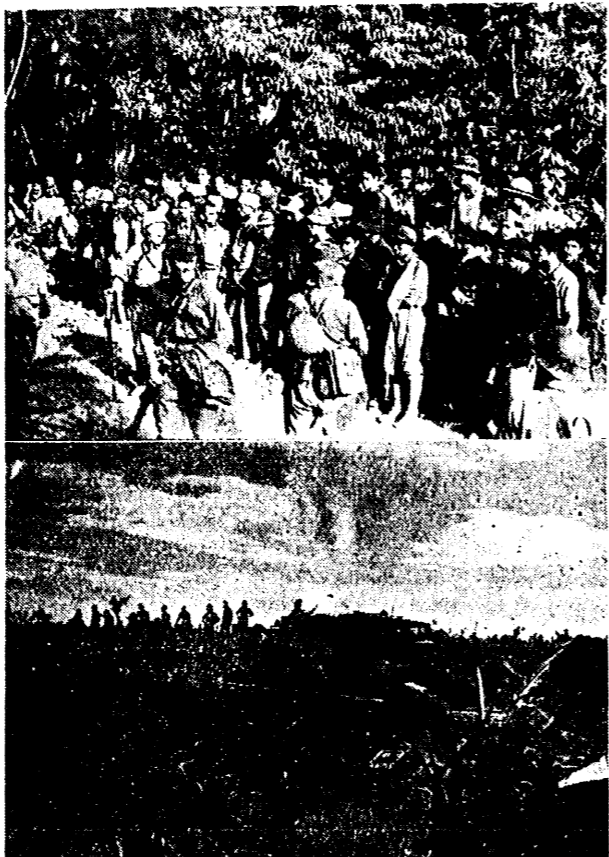
面倒を見てくれる。新聞記
者、映畫班、畫家等も同じ
小屋にゐる。敵陣を背にし
て溪流に臨み、山腹の斜面
をきりならして平らにし、
敵の天幕を利用して露をし
のぐ、これが大塚准尉の宿
舎なのである。茶色の天幕
の各所は焼けて高い楯と空
が見える。

「もう來る頃でせう。」
一人の兵隊が言ふ。
「今日も夕方の音楽を楽し
むかな」
他の一人がこんな相槌を打
つて笑ふ。しかし私は氣が
氣ではない。何と云つても
頭の上は穴だらけの天幕一
枚である。絶対に落下しな
いと誰が云へよう。

次の瞬間であつた。近く
で大砲の發射音を耳にし
た。續いて空氣を強くもむ
やうな甲高い音が頭の真上
で起つた。と思ふ瞬間、私

達が今通つたばかりの森の
中で物すごく破烈した。砂
煙がばつとジャングルの上
に舞上る。何と不氣味な事
であらうか。私はほつと息

をついた。續いて又一彈、
二彈、同じ所に落ちる。私
は起き直つて、ヒュヒュヒ
ユといふ甲高い音と炸烈の
音を何と表現してよいかと



上・タバニア線戦でわが軍の捕虜となつた兵
下・工兵隊の橋を築く進撃する自動車隊

考へたが私は急いでノートに記す。

「砲弾が頭の上を飛ぶ時は空気を強く揉むやうな軽快でしかも鋭い、瞬間的で距離感の強い音がするものだ」と書いた。

砲聲はサクレッツの音より空気を切る音の方が不安で無気味であることを私は経験した。

遠くで五六發續けさまに落ちる。續けて又。これは近い。發射音を聞いて九つ數へて無事なら大丈夫さ」斯う教へてくれる大塚准尉の笑顔は髭だらけである。

あの嚴肅な音を聞いてみると、命の縮まる思ひである。あの空気をさく喰の中

には恐るべき威力を含んでゐる。一しきり續いた破聲が止むと、もう夕食時である。兵隊さんが谷底から飯を運んで来てくれる。まるで手足まとひに來たやうなものだ。これでは戦闘力にぶらせる様なものだと云へば兵隊さんは黙つて笑つてゐた。陽がナチアの山蔭を溪谷の上に落す。降るやうな蟬聲がはたと止む。

夕食が始められて、天幕の破れから見上げる木屑一面にズラリと並んでゐるのはニイニイ蟬であつた。夜が山々を包むと佛法僧が鳴く。溪流の音に和して佛法僧の聲が實に美しくい。戰場とは思へぬ静けさ

である。谷川の向ふから詩を吟する勇士の聲が聞える。天幕の破れ目から星が見える。遠い銃聲と機關銃聲が間斷なく聞えてくる中で、戦線物語が勇士の口から傳へられる。佛法僧の聲が次第に消え、南國の星はあくまで淨らかである。

私は第一線の一夜をかうして迎へた。

夜通し銃聲が聞えてゐる。皇軍の夜襲を恐れての米比軍の銃聲だといふ。流れ弾が頭の上の木の葉に音を殘してシュンシュンと近くに落ちる。

バタン山岳戦も並々の苦勞ではない。又、バタン海岸線の戦線は敵の要塞も

のすぐ堅固であるだけに一層骨が折れよう。隣兵隊さんはもう高イビキを聞いてゐる。背中あたりに突出た石ころがやけに神経をとがらせて寝入れない。

バタンの山に野に空に並々ならぬ苦しい戦が勇士の體力によつて展げられ、精神力によつて勝利へ導いていくのだ。

この一つ一つの戦果がやがて大東亞戦争の目的達成へと大く移行して新東亞が誕生するのである。かのマルベレスの砲門が閉ざされる日こそ、僅に東洋の一角に餘命を保てた米比軍の空しくなる日なのである。

(臺灣軍報道部檢閱済)

共榮圏



(縫裁を服軍のんき隊兵の本日)力協に軍皇も女乙のイタ

諸民族と華僑上

共存共榮をめざし 南方民族の新發足

暹羅の赫々たる戦果の後は、大東亞共榮圏の經濟建設が實現されなければならぬ。南方共榮圏の資源開發利用には、そ

の持てる地上と、地下の資源の調査が必要であるが、同時に開發に必要な労働力の源泉となるべき人的資源としての住民の調

査もまた必要であること忘れなくてはならない。

東印の六千七百餘萬をはじめとして、佛印の二千三百餘萬、

暹羅の千四百餘萬、フィリピン島の千三百餘萬にマレーの四百六十餘萬を合せれば、南方共榮圏内の總人口数は一億二千餘萬人に達し、我國のそれを遙かに凌駕する勢ひで、日滿華三國とともに相携へて經濟共榮圏の建設に邁進すれば、誠に全世界人口の三分の一が共存共榮に到達することが出来る譯である。

佛領印度支那

佛領印度支那は北緯八度から二十三度、東經九十八度から百七度の間に包括され、その總面積は七十四萬平方軒に及び、朝鮮、樺太、臺灣及び南洋委任統治領をも含めたわが總面積よりも更に六萬五千五百平方軒大きい。

この北高、南低の廣大な



農民に協力する皇軍勇士（マニラ郊外にて）

土地に住む住民の数は、わが一億に垂んとする総人口の約二割強に相当する二千万である。而してそれを構成するものとしては、印度支那の先住土着民族たるインドネシア族と西藏、支那、印度方面から侵入し

先住民民族

佛印の先住民民族たるイン

安南人

北方から南下し來つたモンゴル族の一種でもあ

り、前史以前より印度支那半島への移住を開始し、西暦三世紀頃には既に現在のトンキンデルタ地帯を占據して農耕を営み、十世紀の末には最初の王朝を樹立立した。その後南方デルタ地帯にも發展して、現在佛印の南支那海沿岸地域一帯に勢力を張つてをり、その數も千七百萬に達し、全佛印人口の約七三%を占めてゐる。

佛印人口の最主要部分を占める安南人は、同時に佛印の主要産業たる水田耕作の従事者であり、安南人のあるところ必ず水田ありといはれる如く、彼等は本質的な農耕民族である。しか

である。

華僑

以上佛印民族の概貌を述べたが、佛印經濟を語るうへに忘れてはならないことは、東南アジア一帯に絶大な勢力を持つ華僑の存在である。

全世界に分布された華僑總數は、千四百四十餘萬人といはれ、そのうち四百二十萬が東南アジアに居住してゐる。而して更にこれを地域別にみれば、東南アジア居住華僑中の四〇%はマレーに、三二%は蘭印に、一〇・五%は泰國に、八%が佛印に、五・八%がビルマに、

してまた彼等はその文化の發展程度からいつても、佛印在來民族中の最優良人種であり、佛印社會の中樞をなすものである。

カンボチア人

南部佛印の西端カンボチア地方と、交趾支那の西部とに住むカンボチア人は、ネグリト族とマレー族の雜種とみられ、更にヒンズ族の一部とも混血して出來たクメル族の後裔であつて、クメル族は既に五世紀頃この地に王國を建て、十二世紀より十三世紀に互つてそのクメル文化の精華ともいふべきアンコール・ワ

ットを建設した種族であり、現在では、更にタイ族及び先住インドネシア族の血を混へてその勢力を失墜したものの、その數は依然三百萬に近く、全佛印人口の一三%を占めて、安南人同様水田工作に従事して米作を營んでゐる。

泰國の影響を受けて佛教徒たる彼等は、文化水準において安南人に次ぐとはいへ、男子皆僧主義ともいふべき徹底的宗教生活によつて、全く無氣力なものとなつてゐる。

タイ族

タイ族もまた安南人同様

モンゴル族に属し、雲南方面から南下して先住インドネシア人と混血したものであり、現在では北部において東京の山岳地帯に、南部においてはメコン河流域一帯に居住し、その數百四十萬に近く、全佛印人口の約六%を占めてゐる。そのうち代表的なものはメコン河峽谷に住むラオス族であつて、彼等は他のタイ族が農耕を主業とするに對して、メコン河の急流に舟を操つるに巧みであり、狩獵と漁業に従事してゐる。しかし一般にタイ族は原始産業の技術に劣り、唯特色として比較的商才に恵まれてゐることを指摘し得る程度

一・五%がフィリピンに分布してゐる。

佛印の華僑は總數三十二萬六千人、佛印人口の一・四%を占め、そのうち過半の五二%は交趾支那に居住してをり、次いでカンボジアに三三%、東京地方には一%が集中してゐるが、安南とラオスには、それぐ三%と一%が分布してゐるに過ぎない。

彼等は佛印在住の歐洲人同様主として都市に居住し、その三六%はシヨロン、サイゴン、ブノンベン、ハイフォン、ハノイ、ナンディン、ツーランの七大都市に集中してゐる。交趾支那の華僑の半ばはシヨロンと

サイゴンに、東京地方の華僑もまたハイフォンとハノイに集中し、特にシヨロンは「華僑の町」といはれる程で、同市人口の半ばは支那人で、一九三二年の調査によれば在住支那人數は六萬六千人に達してゐる。

シヨロン市はサイゴンの西南約五キロに位し、交趾支那における華僑の經濟的活動の中心地であり、十八世紀後半華僑の手によつて創設され、人口約十三萬、サイゴンとは運河と電車によつて結ばれ、南部佛印の大動脈たるメコン河とも舟運の便があり、サイゴン米の大集散地としてその支那向輸出の積出港である。

佛印華僑の經濟的活動は、他の東南アジア各地における華僑同様、商業的活動に重點を置いてゐるが、彼等が主として取引する土地生産物は、佛印にあつては米であり、米の支那向輸出は彼等の獨占的事業である。彼等は米商人、粵商人、粵仲買人、粵採集人の四に分類され、佛印の米取引に對して絶對的勢力を保有してゐる。更に華僑商人の取扱ふ商品は、棉花、砂糖、香料、絹、茶等で、佛印の大商業取引は殆ど彼等とフランス人の手によつて行はれてゐる。

この他、彼等は企業家として酒造業、葉巻工場、陶器製造所、皮革工場、機械製作所及び造船工場等を経営し、更に印度支那嶺山開發の當初においても重大な役割を演じたが、更にまた勞働者としては、佛印在來民族の勞働者としての不適當な性格のため、勤勉と忍耐を要する諸事業には、支那人勞働者が必要不可欠のものとして重寶がらされてゐる。

最後に華僑の農業方面の活動は、その商業活動に比較して微々たるものであるとはいへ、佛印の胡椒栽培事業を獨占し、また大都市郊外の野菜栽培、サイゴン附近のゴム園經營を行ひ、東京地方の山岳地帯には熟

練せる華僑農耕者もをり、佛印の重要産業の一たる漁業においても支那人は重要な役割を演じてゐる。

は佛印經濟界における不可欠の存在であるといへよう。

タイ國

泰國は北緯五度半から二十度半東經九十七度半から百五度半の間に包括され、最廣幅員約七百七十浬、最狭幅員僅か十五浬、北部の

メナム河を挟む廣大な地域と南部の英領マレーに達する長狭の半島部とから成つてをり、その總面積は五十一萬平方浬に及び、我國



上・陸軍少佐の島比るす迎歡をんさ隊兵・中・和米平・來軍古領下の島比る民住 (植田とき搦米)

の約七割半、佛領印度支那の約七割に相當する。

この地域に住む住民の数は、約千四百四十餘萬人、而してそれを構成する民族として、ネグリート族、オーストロネシア族、クメール族、ビルマ族、タイ族及び支那人が挙げられるが、それは更に数多の種族に細分され、タイ人の構成は極めて複雑多岐に互つてゐるが、これは自然的な理想的定住条件を持つこの國が、民族移動の十字路に位置して、各種各様の民族を迎へ入れたためである。

ネグリート族

かつてタイ全土に互つて

居住した同族も、今日では、後來民族の壓迫を受けて、僅かにマレー半島の山林中に野生の動植物を食料として、放浪生活を營んでゐるに過ぎない。

オーストロネシア族

この種族に屬するマレー人は現在約四十萬、タイ全人口の約三割を占め、その大部分はマレー半島方面に居住し、農耕をなすと共に漁業に従事してをり、更に今一つのオーストロネシヤ族たるチャオナム族は、マレー半島西岸一帯に居住する原始民族で、海産物の採取製造を業としてゐる。

クメール族

この種族に屬する民族は、その種類約十三種に及ぶが、その大部分は今日殆んどタイ國內に存在せざるが、又はタイ族中に吸収されてをり、唯僅かにそのうちカンボヂア人約十六萬、モン族約六萬が纏まつた數字を記録してゐるのみである。

ビルマ族

ラー族及びラー族がこれに屬するが、その數はいふに足りない。

タイ族

タイ族はその原住地たる

南部支那より發して東南アジア一帯に廣く分布し、その數千八百萬に達してゐるが、そのうち約九百萬がタイ國內に居住して、總人口の六三%を占め、この國の支配階級を形成してゐる。

タイ族は更に純正タイ族、コラートタイ族、ラーホ族、シャン族その他に細分されるが、彼等は建國以來の佛教徒として寛容性に富む一面、怠惰にして且つ安逸を貪る缺點あり、一八五五年の對英條約以來、歐米資本主義の侵入を受け、封建的な零細農的半農奴制の下にその八割以上が農民として水田耕作に従事してをり、タイ國總植付面積の九

七%弱は米作にあてられてをり、タイ國は佛印及びビルマと共に世界における米の三大輸出國を形成してゐる。

以上がタイ國在來人種の主要なるものであるが、タイ國もまた他の東南アジア諸國同様華僑の重要發展地である。

華僑

タイ國の人的及び經濟的構成上の重要要素をなす華僑の數は、純粹の華僑として記録されたものは四十四萬五千で(一九二九年調査)東南アジア在住華僑總數の一〇・五%がこの國に在住してゐる譯であるが、これ

にタイ人として登録されてゐる華僑及び混血華僑の數を合算すれば、恐らくその數は二百五十萬に達すべく、全世界に分布した華僑總數の二割強南洋各地にある華僑の四割近くがこのタイ國に居住してゐることとなる。

のあらゆる分野に互つて確固不拔の勢力を扶植すると同時に、英人とともに國內の商權を壟斷して、彼等は國民の中堅層をなす商業階級を獨占してゐる。就中タイ國の主要産業たる農業生産物の殆んど全部を占める米の輸出は、常にタイ國全輸出金額の半ば以上を占めてゐるが、その輸出業者はバンコックに精米所を經營する華僑が多く、彼等は米輸出總額の三分の二を取扱つてゐる。實にタイ國貿易

に莫大な受取超過を齎らすタイ米の輸出は華僑の手によつて行はれてゐるのであるが、また同時にその受取勘定の大半を相殺する國外送金もまた華僑の母國向送金としてタイ國の國富を國外に流出させて來たのである。貿易尻にみられる國富の増大が、國內に蓄積されずして、貿易を壟斷する外國人の本國送金額を増大させるところにタイ國の大きな悩みがある。

臺灣事情

(昭和十七年版)

臺灣總督府情報課編纂

臺灣時報發行所

臺灣總督府構内四階
電話・府構内四九八番

(B6列四三二頁)
定價一・五〇

時局解説

印度洋作戦と バタアン半島の戡定

情報課

アンダマン 島占領

三月二十三日未明、帝國海軍部隊は、ベンガル灣のアンダマン群島中の南アンダマン島ポトブレアに奇襲上陸を敢行し、同島の英軍を無條件に降伏させたのであるが、之はビルマの中心部まで進攻し、全東印度

諸島を戡定し終つた皇軍の印度洋に對する作戦の第一歩であつた。

大戰勃發以來英米側の企圖は次々と粉碎されて來たが、彼等は尙も甘い夢が棄て切れず、全東印度の戡定で日本軍の進撃は終るものと思つてゐた。日本軍にはそれ以上出て來る餘力はな

コロombo強襲

四月五日、セイロン島西岸のコロンボ市一帯には低い雲が垂れこめてゐた。天

ン占領の悲報が飛び込んで來たのであるから、今にして日本軍に印度洋作戦ありと知らされ、狼狽の限りを盡したのも當然である。

氣は悪いが丁度日曜日なので市民達は何れも、市外や地方に向けて休養に出かけてゐた。正午前、どこからともなく鈍い轟きがかきこえて來た。爆音？と思ふ間に、けたましく物凄く空襲警報が、全市の空に響き渡つた。見れば折柄の低雲を衝いて現れた戦爆聯合の大編隊である。忽ち全市各所から高射砲、速射砲、機關銃が砲り立て、コロombo全市を窒息させた。

泡を喰つて舞ひ上るはハリケーン、スピットファイヤー、デファイアンドの各種英空軍の新鋭機である。激しい空中戦が展開されたがその英新鋭機が一機：

又一機：と炎え墜ちていくその間を縫つて悠然たる爆撃機編隊がコロombo飛行場を始め港灣施設倉庫等に猛烈たる爆撃を加へてゐた。

日本海軍航空部隊一命をうけてベンガル灣に進出した帝國海軍艦艇から飛び立つた戦爆聯合大編隊のコロンボ初空襲振りであつた。

一時間に敵 船二十一隻

時局解説

午後三時過ぎ
セイロン島南々
西約三百五十哩
の沖合で、我が
艦艇は二條の煤
煙を認めた。間
をおかずわが海



上・ジャヤルグを猛進
下・山嶺を征く皇軍部隊

艦が、羽叩きならぬ爆音を轟かせて母艦から飛び立つた。敵は甲巡二隻である。逃げまどふ敵艦に、投下爆弾は小氣味よい位に命中す

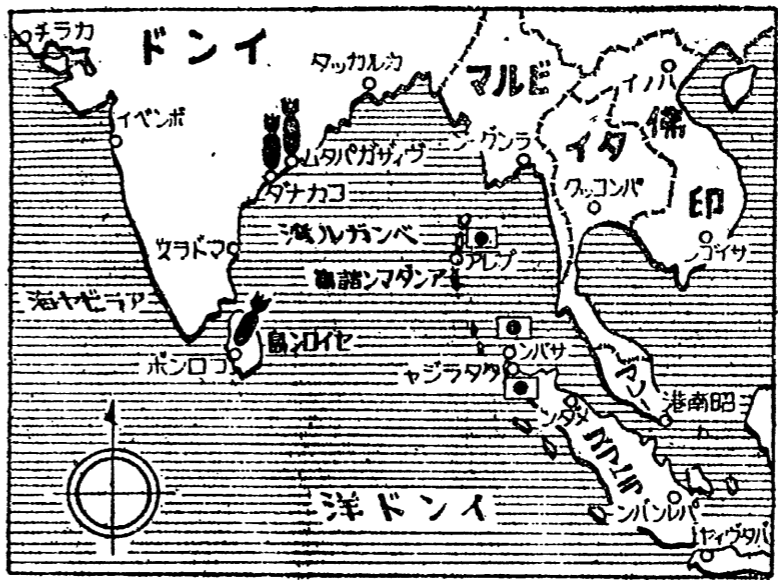
る。九分の後、二隻の敵甲巡は印度洋の底に姿を没した。この日、わが艦艇は爾後の行動を敵にかくす爲に、

腕を扼し乍らも、一日中をじつと待機した。六日、印度洋の午前九時は未だうす暗かつた。夜明と共に飛び立つた友軍艦か

時局解説

ら、わが艦艇に「敵艦見ゆ」との報告がしきり、やがて艦橋の見張員が「敵艦マスト見ゆ」と鋭く叫んだ。一隻、二隻、五隻、十隻、二十数隻からなる敵の大輸送船団である。印度大陸の山々の頂きが微かに見える。真白な砲臺さへ認められる。印度の陸地を隔たるいくらもない海上である。敵艦は餘りに陸地に近いので味方と勘違いしてゐるのか、一向に騒がない、どの船もどの船も、貨物を満載してまるで薄い板でも浮いてゐる様だ。

午前十時砲撃開始、敵船の悉くが海上から影を没したのが十一時。僅か一時間の中に敵船二十一隻が印度洋の濠府と消えたのである。その間陸上の敵からは「印度洋の總艦船は直ちに最寄の港に避難すべし」といふ平文（暗號でない普通の電文）がしきりに發せられる。それが艦艇のアンテナに入ってくるのである。五日、六日と敵を徹底的に叩きつけた我が海軍部隊は、九日更にセイロン島ツリンコマリ軍港を、航空部隊を以て攻撃した。午後三時すぎ、わが爆撃終れりとみたら、敵航空母艦ハーマイス號（一〇、八五〇



艦の損傷もなし。

パタアン半島の要塞

パタアン半島は我が房總半島よりはやゝ大きな廣さで、僅にその東岸に道路が通じてゐるのみで、西岸及中央は、山また山と云つた重嶺の山岳地帯で、密林と斷崖の連続である。西岸には海軍要地オロンガボと南岸にマリベレスを控へ、半島の尖端對岸に要塞の島コレヒドールがある。

米軍はこの地域に十幾年の歳月と十數億の巨費を投じて、近代化學の粹を凝らし、三段構へ、四段構へに

トン）がこの隙を覗つてアフリカ方面への逃走を企てた。何條逃すべき、航空部隊の神の如き早業は、忽ち同艦の甲板を打ち抜き、之を海底に葬つてしまつた。

英印度洋艦隊潰滅す

コロンボ、ツリンコマリ一の大攻撃は正に第二の「真珠灣攻撃」であつた。五日以來の綜合戦果をあけてみると次の通りである。

一、コロンボ方面（四月五日）
撃墜敵機五十

七、港内敵船撃破十六、飛行機格納庫三棟、修理工場一棟、その他軍事施設に大損害を與ふ。
附近洋上にて飛行艇三機撃墜。

二、コロンボ方面洋上（四月五日）
英甲巡ロンドン型、コンウール型各一隻撃沈。

三、ベンガル灣方面（四月五日）
英船二十一隻約十四萬トン撃沈、同七隻約四萬トン大破。

四、印度東岸方面（四月五日）
印度東岸英國重要軍事據點ビザガバタム、コカナダ等急襲、所在船舶、軍

事施設に大損害を與ふ。

五、ツリンコマリ方面（四月九日）
撃墜敵機四十一、炎上四、英乙巡リアンダー型一隻大破、敵船大型二隻、小型一隻撃沈、海軍工廠、大型飛行機格納庫一棟、大薬庫、兵舎、油槽群等重要軍事施設爆破。

六、ツリンコマリ方面洋上（四月九日）
航空母艦ハーマイス及驅逐艦一隻撃沈、敵船四隻撃沈、撃墜敵機十五。

七、其の他
本作戦中帝國潜水艦は敵船七隻撃沈、一隻大破。註、本作戦中我が方の損失飛行機十七、艦艇には微

時局解説

一、コロンボ方面（四月五日）
撃墜敵機五十

七、港内敵船撃破十六、飛行機格納庫三棟、修理工場一棟、その他軍事施設に大損害を與ふ。
附近洋上にて飛行艇三機撃墜。

二、コロンボ方面洋上（四月五日）
英甲巡ロンドン型、コンウール型各一隻撃沈。

三、ベンガル灣方面（四月五日）
英船二十一隻約十四萬トン撃沈、同七隻約四萬トン大破。

四、印度東岸方面（四月五日）
印度東岸英國重要軍事據點ビザガバタム、コカナダ等急襲、所在船舶、軍

事施設に大損害を與ふ。

五、ツリンコマリ方面（四月九日）
撃墜敵機四十一、炎上四、英乙巡リアンダー型一隻大破、敵船大型二隻、小型一隻撃沈、海軍工廠、大型飛行機格納庫一棟、大薬庫、兵舎、油槽群等重要軍事施設爆破。

六、ツリンコマリ方面洋上（四月九日）
航空母艦ハーマイス及驅逐艦一隻撃沈、敵船四隻撃沈、撃墜敵機十五。

七、其の他
本作戦中帝國潜水艦は敵船七隻撃沈、一隻大破。註、本作戦中我が方の損失飛行機十七、艦艇には微

パタアン半島は我が房總半島よりはやゝ大きな廣さで、僅にその東岸に道路が通じてゐるのみで、西岸及中央は、山また山と云つた重嶺の山岳地帯で、密林と斷崖の連続である。西岸には海軍要地オロンガボと南岸にマリベレスを控へ、半島の尖端對岸に要塞の島コレヒドールがある。

米軍はこの地域に十幾年の歳月と十數億の巨費を投じて、近代化學の粹を凝らし、三段構へ、四段構へに

時局解説

トーチカ陣地を築き、群立する山の頂には高射砲が垣の如くに並んでゐるといふ状態であつて、一山一丘之要塞といつていゝのである。そしてこの地に入つた比島人にして再び姿を見せたものはないといはれ、コレヒドール島の要塞築造にあつた比島人は、酷使されたあげくに悉くが惨殺され、僅にマニラ灣に身を投じた三名の者のみが、その命を辛うじて助かつたといふ、暗黒秘密の要塞地帯なのである。従つてこの天嶮を擁し、要害を

待んだこの地域への攻撃は、地上からは勿論、海空何れからしても絶対に不可能だと全世界に信じられてゐたのである。

それだからルソン島の全地域から追ひたてられた米比軍残存の七萬は、この一隅に立てこもり、「糧攻不落」を豪語して、三ヶ月に亘る執拗な抵抗を續けて来た。そして米國はこの米比軍の死守を以つて、對内對外への宣傳資料とし、敗戦糊塗の材料として、自國民や弱少諸外國に敗戦をごま化して来たのである。だから米比軍がこの地に逃げこんだときには米國の各紙は「これこそマツカーサー將

天嶮・要塞 何のその!

然し乍ら流石米國が誇つたゞけはあつて、之を攻略した皇軍には、眞に筆や言葉には盡せぬ辛苦艱難があつたのである。

攻略軍は、南方諸地方の

戡定終るを待つて、日出度い四月三日の神武天皇祭を期して、總攻撃を一齊に開始し、或ひは獸も通らぬ峻しい山を攀ぢ登り、或ひは毒蛇や悪病の蔓る河谷を涉り、この要塞地帯に楔形に突入する作戦を敢行し、三日目の五日には、早くも敵の第一抵抗陣地サマート要塞を奪ひ、次いでその主抗陣地リマイ要塞を陥れたので、これでバタアン半島攻略の鍵がわが軍の手中に握られたのである。

かくて四月十一日には全半島がわが皇軍の脚下に横伏し、米比軍六萬は我が陣門に投降、こゝに世界戦史上特筆大書さるべきバタ

時局解説

ン攻略の幕が降され、残るは渺たる一小島コレヒドールのみとなり、之の潰滅も今や單に時日の問題にすぎなくなつた。

將軍と軍夫

こゝに我々が深く感激させられたのは、この比島方面陸軍最高指揮官が、前の臺灣軍司令官本間雅晴中將であり、こゝに本島高砂族挺身隊が、道路の開鑿や運輸に挺身奉公し、皇軍勇士に協力、大いに

功績をあげたことである。本間中將はこの最高指揮官を拜命されるまで在臺一年一ヶ月、その間には本務の外に、本島統治史上に不滅の光を放つてゐる志願兵制度の實施、今次南方作戦にあつて之亦多大の貢献をなした臺灣特設勞務奉公團の結成、皇民奉公運動等各方面に亘つて多大の力をいたされた方である。

本島と比島とは、従前から緊密な往來があつた上に、今次の攻略にあつて以上の様な特殊な關係を持つたのであるから、今後比島の治安が確立、南方資源の開發や運輸が進むにつれて、一層その關係が深まる

のであるから、吾々はこのバタアン戡定を機として、益々奮起奮闘して、大東亞戰費遂に努力せねばならぬ。

一生戦死で 御奉公

天嶮密林のバタアン攻略に参加して、烈々の祖國愛に燃え乍ら或る時は猿の如く、或る時は悍馬の如くに働いた臺灣義勇隊の一人、高雄州潮州郡ワカバ社の岡山松雄青年の感激談を聞いてその奮闘振りを偲ぶことにしよう。

「世界の平和をもたらすものは日本だけである。日本

は世界平和の爲に戦つてゐる。この戦争に参加出来たのは家門の譽である。私は大日本帝國に生れた有難さに兵隊さんと同じ様に奉公したかつた。支那事變には度々志願したが、希望は達せられなかつた。今度はじめて兵隊さんと一緒に働けることになり感激の極みです。一日戦死どころか、一生戦死の心算で御奉公します。」

これは一人岡山青年のみの燃えたつ心ではあるまい。高砂族青年の舌一臺灣全土の青年、一人々々が總て同じ心と熱に燃え立つてゐるのだ。

(四月二十二日)

皇民講座

第五十講

精神の勝利

アメリカにしても、イギリスにしても、國がひろく、金がたくさんあり、物もたくさんあつて、世の中がうんとひらけてゐるから、ふだんの生活にも、われ／＼以上に金をかけ、物をつかふ。われ／＼があるところを、かれらは車をつかふ。われ／＼が箒をつかふところを、かれらは電気じかけの掃除道具をつかふ。われ／＼が手で、ごし／＼せんたくするところを、かれらはせんたく器械を用ひて、がら／＼とやつてしまふ。かういふやうに、金があるから、ぜいたくな生活をやる。器械を用ひて、物事を大じかけにする。さういふことが進んでゐるから、えらいとおもつてゐるのであらう。

人間のえらいことにならない。さういふ生活をするからえらいといへば、いつでも、金もちがえらくて貧乏人がえらくないといふことになる。そんなばかなことはあるものではない。人間のえらい、えらくないといふことは、心がけによるのである。心正しいこと、それがえらいのである。わが國は、三千年の昔から、あかるい心、きれいな心、まつすぐな心といふことを重んじて來た。之が日本精神の根本で、大和魂もそこから出るのである。日本精神とか大和魂とかいつても、百年や二百年の間にできたものではない。三千年の長い間、みがいて、みがいて、みがきぬいたものである。アメリカやイギリスなどが、物をあつめ、物の力によつて生活をゆたかにしよう、機械の力で樂な生活をしようとしてゐる間に、われ／＼の方はひげふなるまひをして、人に笑はれないやうにすること、主人のためには命をしまぬことなどと、もつばら、精神をきたへることに苦心してきたのである。いつか讀んだ支那事變の從軍記に、隊長が部下を教育するのに、いつも「銃剣がをれたら、手でなぐりころせ。手をやられたら、足でけたふせ。足をやられたら、口で

かみころせ。口をやられたら目でにらみころせ。」とをしへてゐたといふことが書いてあつたが、じつにてつていした教育ではないか。この精神が、すなはち皇軍の攻撃精神で、これがつねに、鬼神を泣かしめる壯烈なはたらきとなるのである。

シンガポールなど、あれだけの防備があつたら、一朝一夕にして落ちるはずはないのだ。それが落ちたといふのは、イギリス軍に精神力がなく、たゞ兵器とか防備とかにたよつてゐたからである。かれらは、ジャングルがあるから、敵は、この方面から進撃ができないとしてゐた。かれらは海岸に鐵條網をはりめぐらし、トーチカをならべて、敵は、この方面からはせつたいに上陸ができませんと思つてゐた。かれらは要塞砲の口をひらいて、敵がこの方面から來たら、みんな吹き飛ばしてしまへると思つてゐた。ところが、どうだ。通れないはずのジャングルを通つて、日本軍がやつて來た。上陸できないはずの海岸から、どん／＼上つて來た。一分間に四百發も五百發も發射のできる機關砲でうちまくつても、要塞砲でが／＼やつても、進んで來た。この皇軍の攻撃精神に

は、かれらは、まつたく手も足も出なかつたのだ。こんどの大東亞戰爭は、至るところでこれだ。皇軍の精神力の前には何物もないのだ。さすがのアメリカもイギリスも、じぶんたちの口頃ほこつてゐた兵器の力といふものは、日本軍の精神力にかゝつては、なんにもならないといふことを知つたのだ。事實、精神力あつての兵器で、一發、千人をたふすことのできる大砲でも、ぶる／＼ふるふる手つきでうつてゐたんではあたるものではない。死をかくごした兵隊が、優秀な兵器をとつてはたらいてこそ、効果があがるのだ。いつの戦争もさうだが、こんどの戦争においても、明らかに精神力が物の力に勝つといふことが、はつきり證明されてゐる。

精神の勝利。それだからこそ、日本精神、日本精神とやかましくいふのだ。皇民鍊成といふことは、この日本精神をつかめといふことだ。

總督府編輯官 中美春治

健民運動

結核病豫防の一要諦

桂 重 鴻

結核病の豫防については、個人的、社会的、國家的等種々の立場から論じなければならぬが、今日は系統的の議論は見合せ、只日常結核病について世人が往々陥り易い考の誤謬を指摘して豫防上の注意の一端と致したいと思ふ。

私共は病人の診療を一つの仕事としてゐる者であるが、それにも拘らず、時として次の様な話を耳にすることがある。例へば「近頃うちの娘が咳嗽をしたり、食が進まなかつたりどうも身體の調子が悪い様です。しかし醫者に診せても結核だなどと言はれて、嫁入

日に差支へでも起つては大變なので、まあ診てもらはない事にしておます。こんな話が醫者の耳にさへ入つて来る位であるから、同じ様な考を持つ人は必しも少くはないことと思はれる。又愈々診察を受けて、病氣が結核病と決つた場合、診断書に結核といふ字を書かないでもらひたいといふ様な要求を受けることがある。その理由は、結核病といふことゝなると、世間に顔むけが出来ないし、彼所も首になるかも知れぬからなどといふやうなのが多い。かやうな例から、世の中の多くの人々、結核病を恥づべき病氣と考へ、出

来るだけ之を隠蔽したり、又社會も結核病者を甚しく忌み嫌ふ傾向を持つてゐることがうかゞはれると思ふ。ところで、此様な考から、どういふ結果がもたらされるかについて、これも實例で御話してみたいと思ふ。それはある有名な學界の長老が仲人をされて、御自分の弟子の一人にお嫁さんを世話されたことがあつた。勿論大切な御弟子へ御世話なさるのであるから、結核病などない筈の家から、よいお嬢さんを選んであげられたのであつたが結婚して間もなく新婦は上合が悪くなり、大學病院で診察を受けた結果は、もう大分進行した肺結核と腸結核であることが分り、新郎はその後病妻の看護に日を送らねばならぬことゝなつた。そして五六年の病臥の後嫁さんは遂に不歸の客となつてしまつたのである。親心から娘の病氣をひたかくしに

健民運動

して三國一の婿殿を捜してた迄はよかつたが、結婚によつて娘の病を重くし、罪のない婿殿のあたら青春を奪なしにし、仲人の面目を丸潰しにしてしまつたわけである。これは只ほんの一例に過ぎないが、結核病を隠蔽しようとする事によつて、如何に大きな禍を醸し、害毒を社會に流すことになるかを知ることが出来るであらうと思ふ。

結核病の隠蔽或はこれに氣づかすにゐることは、なほ直接最も近くに居る者にとつて、更に大きな害毒を及ぼすことゝなる。即ち少々身體の調子が悪いけれども、結核といはれるのが嫌さに診察を受けないと言つた様な時、偶々それが結核病であつた場合には、同居する兄弟なり子供なり

に早晚病氣を傳播させ、延ては一家中が結核病者となつてしまふのである。一方かゝる事實から、一軒の家に結核病者がゐると、その家の他の人も結核病の疑をかけられることになるのである。之に反し、病人を好い加減にして置かないで、早く適當な治療を加へて治してしまへば、一家全部が結核で倒れるやうな變目にもあはないで済むし、また他人から結核家族だなど、後指をさゝれずにも済むのである。要するに結核病を恥づべき病氣、人に顔むけならぬ病氣と思ひ込んで診断を避け、或は世の中に秘さうとする心持が本病の漫延を少なからず助長してゐるのである。従て今日結核病を豫防するために、最も大切な事項の一つは、何人もが結核病なる疾患を恐ることなく、又恥づることなく、早くこれを發見してもらつて、治してしまはうとい

ふ心掛を抱くことである。結核病は今日相當進んだ者でも治り得るやうになつたが、然し早ければ早い程日數も少く完全に近く治り得ることをはつきり知つて置かねばならない。

以上のやうなことを御話すると、左様の話は結核患者には用のあることだらうが、自分や自分の家族のやうな頑健な者にとつては、何のかゝはりもない事だといふ考を持つ人があるかも知れない。しかしこれも亦間違つた考である。この例は幾度も御話したことがあるので、御承知の方もあると思ふが先年全國一の健康兒に選ばれたある少女が、その數箇月後女學校に入學すると間もなく、結核初感染症にかゝつて發熱し、休學したことがある。また高等學校時代短艇と野球の選手であつた私の知人が、大學卒業後間もなく重症の肺結核で斃れてしまつたことなども

健民運動

ある。このやうな例は決して稀なことではないので、自分に限り結核病には用がないといふやうな考は、甚だ間違つてゐる事を示すものである。ツベルクリン皮内反応を行つてみると、成人になるまでには大部分の人が陽性になるが、この事は大抵の人が大人になる迄に、結核菌に見舞はれることを示すものである。勿論結核菌の襲撃を受けた人が、皆結核病にかゝるのではなくて、その中の幾部分の者が發病するのであるけれども、ともかく結核病に絶対にかゝらないと云ひ得る人は無い。かゝるが故に一方結核病を恐れ、又恥ぢる考が誤つて居ることを悟ると共に、又之を侮ることも甚だ間違つた考であることを知らねばならぬ。

然らば結核病を、恐れず、恥ぢず、又侮らない爲には、實際的に如何なる方法を講ずればよいかといふに、それには精密なる健康検査、即ち赤血球沈降速度の測定、ツベルクリン皮内反応、レントゲン寫眞の撮影、もし喀痰が出るならば、喀痰の検査等々を行ふのが最も適當である。これ等の検査は大學附屬醫院、赤十字醫院、又過般來臺北市末廣町にてその機能を發揮しつゝある保健館等へ行けば、何時でも取扱つてもらへる。或は又かゝる公の機關でなくとも、理解ある醫師ならば、喜んで處理してくれるであらう。これに對する費用としては、現在の處では少くともレントゲン寫眞代を要することは止を得ないが、近い將來に、レントゲン間接撮影が今よりもつと普及する様になれば、遂に低廉な費用で済むことになるであらう。この様な検査は一年

に少くとも一回は工合が悪くとも悪くなくとも受けることにする。かくして科學的に常に健康であることを證明して置いて、その上で思ひ切つて働く。萬一この検査の結果僅かな變化でも發見されたならば、早く發見された事は大きな幸福なのであるから、すゝめられる迄もなく、直ちに早期治療を受けて治してしまふといふ工合にするのである。もし總ての人がこの心掛を持しそれを實行するならば、結核病の蔓延は阻止することが出来る筈である。現に各學校とか工場とかで、所謂集團検査を行つてゐる所では、結核病の發病乃至死亡率が年々減じて行くことが證明されつゝある。

要するに結核病を、恐れず、恥ぢず、又侮らざる心がけ、これが結核病豫防乃至撲滅の第一要諦である。

(筆者は臺北帝大醫學部教授)

乳兒の保健問題

村上勝美

育兒相談を利用する事

健民運動

國家の興廢は結局人口増加の如何にかゝつてあると云つても過言ではない。先頃の東條首相の議會演説に依れば、昭和九年以來降り振つた自然人口増加が十三、十四年の六十萬を底として漸次上昇し、十六年には百萬に上つてゐる。之は出生数の増加と死亡数の減少、殊に乳兒死亡率の低下に依るのであると云はれてゐる。戦時に於て、この様な人口増加は未だ嘗つてなかつた事だ、この事は我國の自強と優秀性を示すものであつて、前途洋々たる日本の將來を示すものである。然しながら、國力に非常に大きな關係のある乳兒死亡率が低下しつゝあるとは云へ、之を歐米諸國に比べれば尚一倍半乃至二倍の高率である事を忘れてはならない。殊に臺灣では、本島人口に於て一〇〇〇人生れて一年間に一四五人も死ぬと云ふ事實を私共は銘記しなければならぬ。どうしたらその死亡率をもつと低下し得るか云ふ問題になると、私共小兒科醫の手では決して完全ではなく、どうしても家庭にあつて育兒の第一線に立つてゐるお母さん方の協力がなければならぬ。子供は國の子供である。不注意や設備不足のために、一人と雖も無駄に損ずる事がある。つてはならない。私はここに乳兒にとつて、保健問題中一番大事なる養育の問題をとり上げて一般への注意と希望を述べたいと思ふ。

本や雑誌で讀んだだけでは、その知識は身につかない。直接耳から聞いた事はよく覚える。本は個々の疑問に對して満足の行く解答を與へてくれないが、育兒相談所の醫者は、納得のいく迄充分に解決、指導してくれる。昔は病人を治すだけが醫者の仕事であつたが、今は病氣にしない様に努力する事も大きな仕事になつて來た。育兒相談所は豫防醫學の一つの尖兵である。乳兒幼兒にとつて一番大事な問題は、乳兒の養育と離乳の問題で、生後二年迄の間は一生を通じての身體の基礎が出来るのである。老人達は「我々はそんな面倒な事をしなくとも、ちやんとこの通り大きくなつて來たではないか」

健民運動

と云はれるが、これは一つの屁理屈に過ぎない。我々は今日の最新最上の知識を以て、よりよい身體に仕立上げ、弱い子供を強くし、病氣を未然に防がねばならない。常に養育は子供の健康の根本問題であつて、例へば養育の良い子供は肺炎にかゝり難いし、又罹つても死ぬ率は少いが、反之、養育不良の子供は、感冒からすぐ肺炎になり、肺炎になると重症になる。之は肺炎に限らず、消化不良や麻疹、百日咳でも同じである。つまりは両親の一寸した注意に依つて、愛児を救ひ得るのであつて、養育さへ良ければ病氣も恐れる事はない。この様に乳幼児にとつては、養育の及ばず影響の範圍は實に廣いのであつて、時々の子供の健康診査、養育法、離乳法の相談と云



ふ事は、子を守る親の義務と考へなければならぬ。毎月一回體重を測つて、發育状態を見るだけでも結構である。そこから興味も湧き、關心も出来てく

牛乳は先づ乳幼児へ

私共の最近の調査では、母乳だけで充分育てる事の出来る母親は、内地人が八割、本島人が五割となつてゐて、後の二割乃至五割と云ふ子供は、多かれ少かれ母乳不足のため母乳以外のものをのんでゐる。臺北市だけでも一年の出産一萬として、夥しい赤ちゃんが母乳代用品で育てられてゐる。乳が出ない原因としては色々あるが、その中には自由主義的な考へから、又は初めの不注意から、努力が足りない事等から起つてゐるものも相當にある。又母親の養育不足、過勞から起るものもあるが、母乳養育が最良の養育法であること云ふ立場から大いに注目を要する問題

と考へられる。

煉乳は乳児の養育品としては不適當である。之だけでは小児は決して丈夫には育たない。然しながら砂糖が要らない、腐らない、廉いと云ふ理由から、本島人間には非常に廣く使用されてゐる。乳児の死亡率が高いのも煉乳のためであること云つても過言ではあるまい。而も使用方法が誤つてゐて、薄すぎるのである。大人に薄粥ばかり食はしてゐる様なもので、その結果は乳児では大人以上の恐るべきものがある。煉乳だけで養育する事は是非止めて戴き度い。

育兒教育を徹底させる事

女學校では現在にでも「育兒」は家事科の一部に入つてゐる過ぎない。教



食店等の消費が馬鹿にならないのである。乳製品が足りないと言ふ苦勞する母親のある半面には、健康な大人が飲んでゐる牛乳が多いとは何と云ふ皮肉な事だらう。乳児にとつては、唯一無二の食糧である牛乳・乳製品は、彼等のために確保してやらねばならない。かう云ふ自覺のない人は社會的の罪人である

健民運動

である。現在臺灣では母乳代用品に困つてゐる。粉乳、煉乳が島内で出来なからであり、乳牛が少いからである。この事を慮つて昨年十二月に牛乳を乳児に優先的に配給する制度が出来た。母乳に代るものとして先づ牛乳、次に粉乳である。従つて牛乳が手には入り易い都會地では、先づ牛乳を與へる事が養育學上にも政策上にも當を得てゐるのである。その制度が出来て今日迄四箇月、現在果してこの制度が活用されてゐるかどうか多少の疑問がある。

色々と業者に對する不平、不滿の聲を聞いてゐる。その不平不滿も、要するに配給がうまく行かないと云ふ點にあるが、牛乳が不足してゐるのかと思ふと、さうではないので、不必要な方面、例へば健康な大人、飲

健民運動

へる人もその實際を知らず、教はる方も唯数字を興味もなくノートしてゐる現状である。之では實際自分の子供に對して何の役にも立たない。牛乳に砂糖や重湯を（入れるのは何故か、離乳は何故に必要かと云ふ事の根本的な觀念なしに、そのまゝやり方丈けを丸暗記したのでは、その知識は甚だ融通の利かないものである。雑誌を先生として子供を育てゝゐるお母さんで、とんでもない間違ひをやつてゐる事が少くない。要は唯書いてある物をたより、ノートをひらいただけの知識であるから、實際に當つて戸迷ひするのである。東京では既に女學校高等科の生徒に育児の實習を試みて非常に成績を擧げてゐる。唯生めよ殖やせよではいけない。生れた後の事に對し

ても十分に親切に教育してやる事が必要である。臺灣では實習の場所に困るがやり方に依つては、大學病院の小兒科等を適宜利用する事も出来ると思つてゐる。

（筆者は臺北帝國大學醫學部教授）

學童の健康管理

丸山芳登

現在の教育は、教育の全般に亘つて皇國民としての鍊成が中核をなしてゐる。學校は即ち皇國民の鍊成道場である。故に當事者の責務として、皇國精神に透徹した人間であることは勿論であるが、大東亞の指導國民として恥しからぬ智能と襟度と體力とを備へた大國民を作りあげねばならぬ。心身の健全は奉仕の第一條件をなすものである以上、青少年の教育に於て最も重要な分野を占むるのであることは、今更喋々する迄もないことである。若し之

を等閑視するが如き者があるとしたならば、それは教育の基礎を覆へず者である。猛省しなければならぬ。さて、私は學童の健康管理に就て所懐の一端を述べ、學校當事者並に兒を持たれる保護者各位の御參考に供しようと思ふが、順序として本島初等學校兒童の保健現況が、どんな状態に置かれてあるかを、數字の上から大觀してみよう。總督府に於ては五箇年毎に各學校で慎重に行はれた學生生徒兒童の身體検査單名票の送付を受けて、色々

健民運動

な角度から統計的觀察を下し、學校當事者の參考に供してゐるが、去る昭和十二年に行つた統計成績から二、三の事柄を拾つてそれ以前に行つた成績と比較し、趨勢を窺つて見る。近視は無學文盲なものに少く、知識階級に多いので、學校病の一つに數へられてゐるが、内臺人男女共に漸次増加の傾きにあることは、洵に憂ふべきことと云はなければならぬ。例へば内地人男子は昭和二年の總平均一五・八七の近視者率であつたが、昭和七年には二二・七七となり、昭和十二年には三三・二〇に遞増し、本島人男子に於ては昭和二年一〇・五六であつたものが、昭和七年には二二・七四となり、昭和十二年には四四・三三と遞増してゐる。之を國民學校兒童だけに就て見ても

同様の状態であつて、昭和七年にあつては内地人男兒一三・三七、本島人男兒一・七〇、内地人女兒一四・四八、本島人女兒一・二九であつたが、昭和十二年にあつては内地人男兒一五・〇三、本島人男兒一三・三九、内地人女兒一五・八七、本島人女兒一四・三四と何れも若干宛増加してゐる。高砂族兒童は内臺人よりも一般に罹患率が低いが又年々増加の傾向を示してゐることは同様である。齶齒に於ても種族によつて差はあるが、何れも年々遞増の趨勢にあることは近視のそれと同様である。唯々聴力障礙、脊柱彎曲、トラホームなどは稍々減少の傾きを示して居り、衛生思想向上の影響ではなからうかと思はれるが、然し國民學校兒童のトラホーム罹患率は、今尙内地人男兒九・〇五、内地人女兒八・七四、本島人男兒三九・九八、本島人女兒二七・九三と云ふ

高率を示してゐる事實を見ては、學校傳染病豫防規則から云つても大に考慮しなければならぬ問題と云はなければならぬ。其の他内地人兒童に多い疾患は慢性鼻炎、淋巴腺腫、扁桃腺肥大、胸腺異常などであり、本島人兒童に多い疾患は、マラリア、白癩、疥癬などである。是等の疾病及び異常は、内臺人を問はず初等學校に最も多く、上級學校に進むに従つて少くなる。尙、身體検査の総合的觀察に於て當時注意を要する何等かの缺陷を有する者を要監察者と呼んでゐるが、此の要監察者が、國民學校の内地人男兒に一〇・九九存在し、同じく内地人女兒に九・三二、本島人男兒に一八・五八、本島人女兒に一〇・一四の比率で存在してゐる。

以上は統計成績に現はれた全島的の學童保健概況であるが、之を地方別、都鄙別、其の他學校別などに觀察する

健民運動

と、近視、トラホーム、齲齒、マラリアなどの罹患率ばかりでなく、特別身体検査によつて得た結核、寄生虫などの罹患率に就ても、濃淡に可なり等差あることは申すまでもない。従つて如何なることに努力しなければならぬかは、其の地域なり學校なりの實情を知つた上でなければ方策を建てる事が出来ない。斯様な觀察資料にする爲に、各學校では自校學童の綜合身體検査統計表が作られてゐる筈である。よろしく之を他校乃至他地方の統計と脱み合せ、或は校醫の意見を徴して自校の最も必要とする養護施設或は鍛鍊指導の何んであるかを知り、緊急なものから着手すべきである。

學童年齢期の死亡率は、内臺人男女を通じて全生涯中最も少ない(第一表

第一表 死七〇〇に對する各年齢級の死亡比 (昭和十三年)

年齢	内地人		本島人	
	男	女	男	女
0-1	1.1	1.2	1.5	1.6
1-2	1.1	1.2	1.5	1.6
2-3	1.1	1.2	1.5	1.6
3-4	1.1	1.2	1.5	1.6
4-5	1.1	1.2	1.5	1.6
5-6	1.1	1.2	1.5	1.6
6-7	1.1	1.2	1.5	1.6
7-8	1.1	1.2	1.5	1.6
8-9	1.1	1.2	1.5	1.6
9-10	1.1	1.2	1.5	1.6
10-11	1.1	1.2	1.5	1.6
11-12	1.1	1.2	1.5	1.6
12-13	1.1	1.2	1.5	1.6
13-14	1.1	1.2	1.5	1.6
14-15	1.1	1.2	1.5	1.6
15-16	1.1	1.2	1.5	1.6
16-17	1.1	1.2	1.5	1.6
17-18	1.1	1.2	1.5	1.6
18-19	1.1	1.2	1.5	1.6
20-24	1.1	1.2	1.5	1.6
25-29	1.1	1.2	1.5	1.6
30-34	1.1	1.2	1.5	1.6
35-39	1.1	1.2	1.5	1.6
40-44	1.1	1.2	1.5	1.6
45-49	1.1	1.2	1.5	1.6
50-54	1.1	1.2	1.5	1.6
55-59	1.1	1.2	1.5	1.6
60-64	1.1	1.2	1.5	1.6
65-69	1.1	1.2	1.5	1.6
70-74	1.1	1.2	1.5	1.6
75-79	1.1	1.2	1.5	1.6
80-84	1.1	1.2	1.5	1.6
85-89	1.1	1.2	1.5	1.6
90-94	1.1	1.2	1.5	1.6
95-99	1.1	1.2	1.5	1.6
100以上	1.1	1.2	1.5	1.6

参照)傳染病に對する抵抗力は年齢によつて著しく消長するものであるが、恰も此の年齢級は痘瘡、麻疹、デフテリア、などの傳染病に對しては若干の抵抗力生じ、又成熟者に多く發生する腸チフスなどの病毒に對しても尙若干の抵抗力を保つて居る。又他の一面より觀察するときは、上記の年齢級は智能及び運動機能などの進歩發達が就中良好な時期であつて、疾病治癒の如きも生活力旺盛なる爲が高年齢者に比すると短少の時日を以て是る場合が多い。之等の事柄が綜合されて死亡率が最も少ないものであらうと思ふ。それであるから學童期の健康管理は此の好條件を極度に善用すべきであつて、獨り鍛鍊方面のことばかりでなく、結核感染の發病豫防の如きも感染率に較べて發病者も死亡者も少ない。此の時期に最も効果を擧げ得るものと思はれる。(第二表参照)。

學齡期兒童の結核による死亡は、他の年齢級の者に較べて少ないことは前述の通りであるが、それにしても内閣統計局から公表せられて居る原因統計によると、去る昭和十三年に於て十歳乃至十四歳の年齢級に於て死亡した二萬七千七百七十二名中、種々な結核に

第二表 結核死亡七〇〇に對する各年齢級の死亡比

年齢	内地人		本島人	
	男	女	男	女
0-1	1.1	1.2	1.5	1.6
1-2	1.1	1.2	1.5	1.6
2-3	1.1	1.2	1.5	1.6
3-4	1.1	1.2	1.5	1.6
4-5	1.1	1.2	1.5	1.6
5-6	1.1	1.2	1.5	1.6
6-7	1.1	1.2	1.5	1.6
7-8	1.1	1.2	1.5	1.6
8-9	1.1	1.2	1.5	1.6
9-10	1.1	1.2	1.5	1.6
10-11	1.1	1.2	1.5	1.6
11-12	1.1	1.2	1.5	1.6
12-13	1.1	1.2	1.5	1.6
13-14	1.1	1.2	1.5	1.6
14-15	1.1	1.2	1.5	1.6
15-16	1.1	1.2	1.5	1.6
16-17	1.1	1.2	1.5	1.6
17-18	1.1	1.2	1.5	1.6
18-19	1.1	1.2	1.5	1.6
20-24	1.1	1.2	1.5	1.6
25-29	1.1	1.2	1.5	1.6
30-34	1.1	1.2	1.5	1.6
35-39	1.1	1.2	1.5	1.6
40-44	1.1	1.2	1.5	1.6
45-49	1.1	1.2	1.5	1.6
50-54	1.1	1.2	1.5	1.6
55-59	1.1	1.2	1.5	1.6
60-64	1.1	1.2	1.5	1.6
65-69	1.1	1.2	1.5	1.6
70-74	1.1	1.2	1.5	1.6
75-79	1.1	1.2	1.5	1.6
80-84	1.1	1.2	1.5	1.6
85-89	1.1	1.2	1.5	1.6
90-94	1.1	1.2	1.5	1.6
95-99	1.1	1.2	1.5	1.6
100以上	1.1	1.2	1.5	1.6

衛生調査第十七輯「臺灣の結核」による

岡和夫氏は京都市の學童に就て調査せられた成績を報告せられてゐるが、昭和十四年四月から同十五年三月までの一年間に在籍兒童十四萬二千二百二十九名中、三百十六名の死亡者があつたが此の中九十五名が結核に因る死亡である(男十一名、女十八名)を發見した。即ち之等の兒童は顯著な自覺症がない

第三表 一〇—一四歳の結核による死亡數 (昭和十三年)

結核の種類	死亡數
肺結核	46
腸結核	1
骨髄結核	1
皮膚結核	1
泌尿器結核	1
生殖器結核	1
他	1
合計	53

健民運動

よつて死亡した者は八千七百二十六名に昇つて居り、三・一%即ち約三分の一は之が犠牲となつて居ることを省みるならば、青年級に於ては勿論であるが、又學童にあつても輕々に看過し得ない疾患であることがお判りであらうと思ふ(第三表参照)。

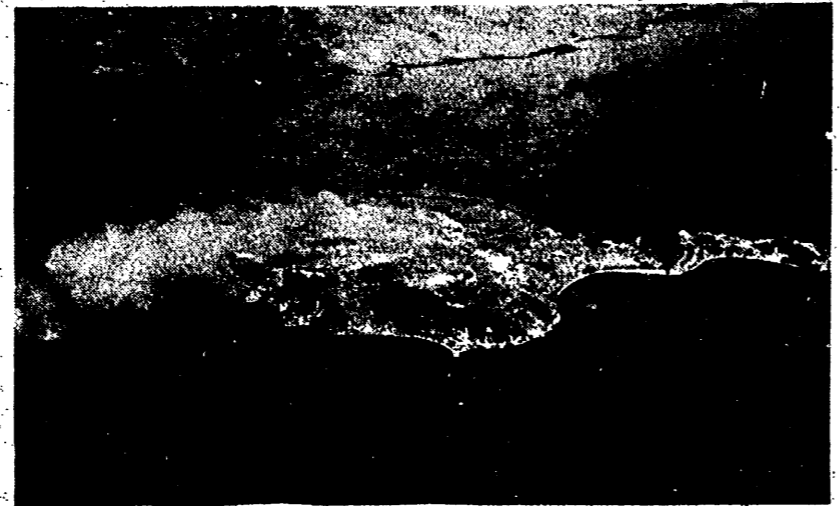
尙最近の文獻から引照して、學童の結核に關して報告せられてゐる例を一、二附け加へて参考にしよう。

健民運動

爲平氣で通學してゐたものであるが、其の家庭を調査して見ると、五五・二％は傳染源たり得べき家族であつたと云ふことである。以上の例は市街地にある學校の例であり、結核の浸淫度は空氣、日光、傳染の機會等の關係から、都市に濃厚であることは想像し得ることであるが、然し市街地接續の農村或は密集生活をなす漁村などにも、偶々濃厚な所も稀れでないことは、人口の六〇％を含む全國平均の統計に於て十歳乃至十四歳の兒童死亡中、前述の如く三二・一％が結核によつて斃れてゐる事實からも推定し得る所である。本島農村の結核浸淫度も、一般から見ても左程低いものとは思はれない。のみならず農村は一般にトラホーム、マラリア、寄生蟲などの罹患

率が相當高い。農村の學校なるが故に養護施設が不必要である如く考へる者があれば、それは極めて皮相な考へであつて大なる錯覺と云はねばならぬ。寧ろ衛生思想の低いところから、より以上に必要な筈である。冒頭にも述べた如く、學校教育の目的は心身共に健全な皇國民を育成するものであり、立派に國家のお役にたつて之等の青少年が、吾等に代つて次代帝國の安危を荷負ふ皇國民であることを思ふならば、國家將來の興廢は、一に教育者並に兒の親たる者の双肩にあると云つても過言ではない。切に當事者の反省を促して筆を擱く。

(筆者は臺灣總督府教育官)



比島戦線 上 わが猛爆に炎々と燃えるコレヒドール要塞
下 戦線視察中の比島方面陸軍最高指揮官本間中將

部報掲載資料 募集

感話 各地に於ける感激實話又はニュース(一篇の長さは四百字詰原稿紙二枚以内とす)
漫畫 時局又は生活を取り入れたる興味的な漫畫(郵便はがき又は美濃半切大の需用紙を用ふる事)

昭和十七年五月一日開始發行
編輯部 臺灣總督府情報課
〒台北市東區三丁目十五番地
印刷部 加藤 豐吉
〒台北市東區二丁目四三番地
發行所 小塚本店印刷工場
〒東京都中央区小塚二丁目一四番地
電話 東京二一八四三・二一八四六番
廣告掲載御希望の向きは左記へ御照會御申込を乞ふ
大阪市東區高島橋三ノ十一
電話 大阪二一八四三・二一八四六番

臺灣總督府殖産局
物價調整課編纂

總冊下巻物價夕ロース
加藤式約五千頁

契約定價約拾圖

台灣價格關係法規類集

價格統制法規の權威ある決定版

集約的

世界非常の變局に際し、高度國防國家建設のため緊急に五年、各種の經濟統制法の公布を見たが、價格統制に關するものは、その影響も甚大なるものあり、且其統制の進行のため公定價格の制の全面的に擴張せらるゝに及び、その國民生活に及ぼす影響も亦甚々重大となつた。本書はその法令の運用に關する方針を明らかにすると共に、公定價格に於ても、物品別に細分致して、檢出に便ならしめ、關係法規右の條の集めたりしめると共に、價格統制の趣旨徹底のため、今回臺灣總督府殖産局編輯課に於てこれを編纂し、總督府内閣府編輯所に於て出版發行することとなつた。希望者は至急購取されたい。

内 容

- 一、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 二、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 三、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 四、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 五、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 六、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 七、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 八、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 九、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）
- 十、價格統制令（府州廳官報、臺灣總督府官報）

昭和二十一年五月十五日發行
昭和二十一年五月十五日發行